

にじーず活動報告書 2019年度

LGBTユースの居場所ににじーず

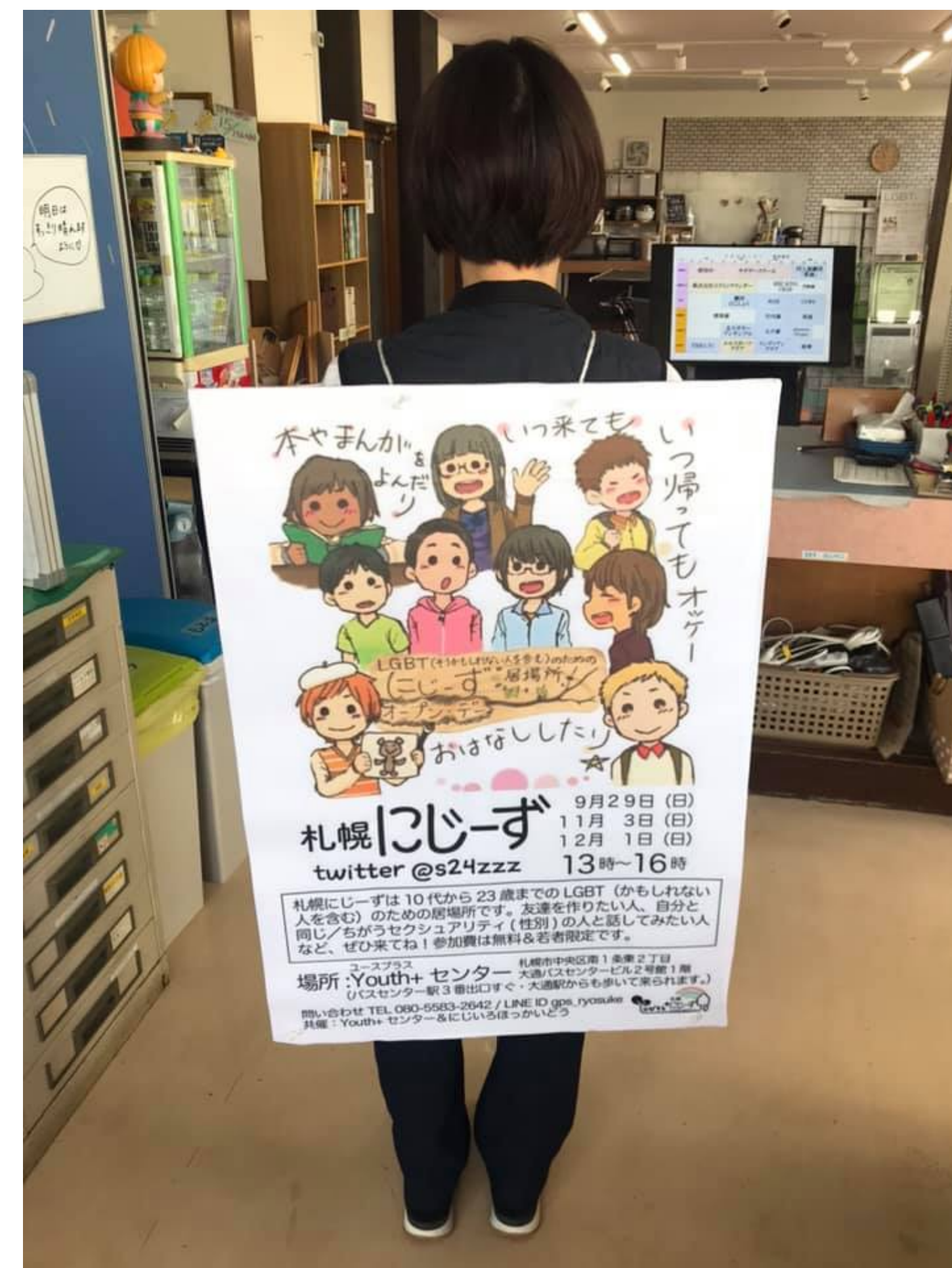
(1) 運営体制

- にじーずは10代から23歳までのLGBT（かもしれない人を含む）が毎月集まれる居場所として2016年8月発足以降、池袋を拠点に活動してきました。
- 参加者は自分のジェンダーやセクシュアリティについて日頃話せないこと、学校や家庭などで困っていることを共有できます。
- 若年層のLGBTが安心して集まれる場が全国的に乏しく、拠点を増やしてほしいとのユースの問い合わせが相次いでいるため、今年度は札幌、埼玉を含めた3拠点での居場所事業をはじめました



(2) 他団体との連携

- 若年層のLGBTが直面している課題は多岐にわたり地域での他団体連携が重要です。(例:家族関係、不登校、ひきこもり、自傷行為、貧困など)。
- 池袋では東京都エイズ啓発拠点”ふぉー・ていー”、札幌では札幌市若者支援総合センターYouth+と連携し、にじーずの開催日以外にもユースが気軽に訪問できる体制づくりを行っています。
- 埼玉では県内の子ども若者支援NPOとイベント開催やリーフレットの作成・配布を通じて地域の社会資源との連携をはかりました。



パレードで宣伝ボードを作ってくれたYouth+職員

(3) 活動記録

- ・ オープンデーやユース向けイベントを東京、埼玉、札幌の3拠点で合計41回開催し、のべ573名の参加がありました。
- ・ 東京では活動報告会、札幌では公開シンポジウムを開催しました。
- ・ 埼玉では若者支援に関わる3団体と公開講座を開催しました。また、県内の子ども食堂など約200箇所に小冊子「子どもに関わる人たちに知ってほしい性の多様性」を配布しました（画像）。



(4) 参加者の声

- 初めて行ったときに、人が沢山いるのを見ただけで、自分だけではないのだと安心できた。
- 自分のことを隠さなくて良い居場所があるというだけで安心感を持つことができました。
- 自分以外にも同じようなことを考えている人たちがいて、なおかつ前向きな人が多くて、私も前向きになれました
- にじーずで会った友達とにじーず以外でも遊ぶようになった。
- 自分がありのままにいれる世界があることがわかって気が楽になった。相談できる友達ができた。親にカミングアウトすることができた
- いろいろなトピックで話が出来て楽しい

(5) 今後の課題

- 全国的にユースが参加できる場所の少なさ。自分の地元でも開催してほしいとの要望が常にあります
- 地域の子ども若者団体とのさらなる連携。使える社会資源を増やすためにさらに模索を進めたい
- 拠点拡大に伴う経営面での安定。2020年度には法人化を検討します。

(6) 会計報告

<収入の部>

助成金	¥400,000	雑収入	¥7,171
寄付金	¥505,332		
合計	¥912,503		

<支出の部>

人件費	¥369,000	交通費	¥124,234
会場費	¥120,040	支払手数料	¥110,000
広告宣伝費	¥21,740	消耗品費	¥18,342
通信費	¥27,764	雑費	¥1,640
合計	¥792,760		

当期収支差額	¥119,743
前年度繰越金	¥212,784
次年度繰越金	¥332,527